



## 自治振興部会開催しました

第1回部会を7月10日に実施しました。組織メンバーは、各区長・副区長・各プロジェクト（学びの里・癒しの里山・空き家清掃・魅力発信・青谿書院管理）の皆さんです。部会の内容は、宿南地区をよりよくするためにはどうすれば良いのかを考えるために、宿南地区の過去・現在・未来（10年～20年後）の良かったところ、悪かったところ（良くなるだろう・悪くなるだろう）ことについてのワークショップを行いました。ワークショップで出てきた事項の集約ができたので、第2回目の開催を8月21日（月）に行い、集約した結果を部会員の皆さんに再度確認していただきました。高齢化・空き家・人口減・農業・交通などの課題が多くあることが見えて来ました。

宿南の未来のために地区民の皆さまのご協力をお願いしたいです。次回は10月20日（金）19時より部会を開催します。

興味・関心のある方はプロジェクトメンバーでなくても参加OKです。ぜひお越しください。



### 良かったところ

過去 活気があった	現在 水害の心配がなくなった	未来 社会福祉
--------------	-------------------	------------

### 悪かったところ

過去 水害の被害	現在 空き家増加	未来 高齢化・人口減
-------------	-------------	---------------



## 小学校田の稲刈り

9月1日（金）午後 小学校前の田んぼの稲刈りを、3・4・5年生の児童でおこないました。

現在は機械化が進み、稲の刈入れも短時間で終わってしまうため、ほとんどの子供が刈り方、束ね方、掛け方を知りません。営農組合の皆さんに指導していただきました。

稲刈り体験が初めての3年生は、束ね作業は難しくて少し時間がかかっておりました。5年生はさすがにすべて上手くこなしていました。



皆さま、いかがお過ごしですか？

残暑厳しいですが、暦の上では もう秋！

9月のお楽しみデーは 21日（木）と25日（月）です。

中秋の名月に合わせ、おいしいお月見〇〇〇を用意しています。

ぜひ、お越し下さい！お待ちしております。

喫茶  
ひまわりより



## 身近で見られる植物 ⑳

### クズ（葛）〈マメ科〉

この時期、野辺の道を歩いていると、甘い香りがしてきます。地面を覆うように、または樹木を覆うように広がる邪魔者扱いされるツル性の草本植物です。フジの花より濃い紫のマメ科の特徴ある花を着けます。葉は3枚で1枚の三出複葉です。根は、風邪薬等の葛根として、デンプンは葛餅に、新芽も花も食用になりツルとしても使えるなど大変有用な植物です。秋の七草にもなっていますよ。



夕風や実りは間近

とんぼ増ゆ



稲刈りへ一番乗りの

児童かな



鶴

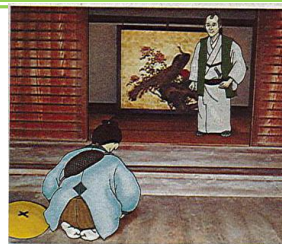
お知らせ

9月 7日～10月16日 小学校夏休み作品展(ふれあい倶楽部 梅の間)  
9月17日(日) 宿南地区総合運動会 10月 8日(日)～9日(月祭) 秋まつり  
10月20日(金) 第3回自治振興部会 10月29日(日) 村民号 京都方面(別紙)



## 草庵先生紹介

日記 55



多度津の弘濱書院の  
玄関で林良斎に会う  
池田盛之助

宮崎和夫さん作

池田草庵は師友を求めて、四国、中国の旅をして、多度津藩（現香川県内）の林良斎という尊敬できる友人を得ることができた。それ以来、2人は手紙のやり取りを通じて互いに切磋琢磨していたが、草庵は良斎からもっと直接に学ぶために、自分の片腕とも言えるおいの池田盛之助を良斎の元に留学させることにした。「夜、盛也来る。塾生集まり小灼しながらだんらん対話。明日盛は讃岐の多度津に行く」（嘉永2〈1849〉年1月22日）盛之助（日記では盛也、盛と表記している）が林良斎のもとに出発する前夜の日記だ。塾生と共に小灼をしながら旅の安全無事を祈ったのであろう。翌日、盛之助は青谿書院を出発したのだが、きちょうめんな盛之助は、出発の日から「己酉日記」という題名で良斎の元への留学の日々を書き残している。盛之助は、大阪に出てそこから船に乗って高松に2月5日に上陸した。翌日の6日には多度津に着き、7日には林良斎に会うことができた。「朝起きて結髪。弘濱書院（林良斎の塾兼書斎）を訪ねる（中略）林良斎先生来られて、初めて面会。来意を述べる。先生は『私は田舎に住んでいる者で学問もできていない。あなたに教えるものがないことを心配している』と言われる。昼食を賜りしばらく話し合い。私は旅館に帰ることを願ったが、『今日はここに泊まりなさい』と言われる。先生は自分の家に帰られたが、しばらくして岡田弥一郎氏が泊まりに来る。静座の話などして、しばらくして就寝」（嘉永2年2月7日）（吉田公平著「池田盛之助の修学日記」から）翌日から、林良斎の門人たちと一緒に学ぶ生活が始まった。多度津には3月5日までの約1カ月間いた。帰りは京都の春日潜庵などを訪問してから帰郷した。「今日、盛が讃岐より帰る」（同4月4日）草庵は帰郷した盛之助から良斎から学んだことなどを、毎日のように聞いた。「朝より盛也の話を聞く。林良斎や春日潜庵の近況を聞く」（同4月5日）。「盛也来る。ずっと話していた。國屋松軒も来る。盛也の書き留めたものを見る」（同4月6日）。少しでも良斎から学びたい草庵であった。その良斎は、盛之助が多度津を離れてからまもなく病死したことがわかり、草庵の落胆は大きかった。

池田草庵先生に学ぶ会